

**福井経済新戦略**  
**プロジェクト推進行動計画**

**福 井 県**

# 目 次

「福井経済新戦略」の概要	1
--------------	---

「プロジェクト推進行動計画」の位置づけと推進体制	2
--------------------------	---

## 基本戦略1 福井の文化と生活に根付く「ふるさと産業」の元気再生

プロジェクト1 「福井のこれから100年企業」育成プロジェクト	6
---------------------------------	---

プロジェクト2 「福井型まちなかライフスタイルセンター（新しい商店街）」形成プロジェクト	8
--	---

プロジェクト3 「ふくいブランド」ビジネス拡大プロジェクト	10
-------------------------------	----

プロジェクト4 「チーム福井」アジアビジネス拡大プロジェクト	12
--------------------------------	----

プロジェクト5 アジア交流ゲート「敦賀港・福井港」活性化プロジェクト	14
------------------------------------	----

## 基本戦略2 「新たな成長産業」の展開

プロジェクト6 「福井型未来都市提案企業」創出プロジェクト	18
-------------------------------	----

プロジェクト7 新「福井クールアース」環境・エネルギー産業化プロジェクト	20
--------------------------------------	----

プロジェクト8 「福井の健康長寿・快適生活」提案産業化プロジェクト	22
-----------------------------------	----

プロジェクト9 「福井産フードビジネス」活性化プロジェクト	24
-------------------------------	----

プロジェクト10 「ふるさとふくい」観光誘客強化プロジェクト	26
--------------------------------	----

# 「福井経済新戦略」の概要

## 現 状

世界的不況の影響により生産活動が低迷

環境・エネルギー市場など新たなビジネス機会の拡大

世界の市場が欧米からアジアへ急激にシフト

## 課 題

円高等による国内産業の空洞化への懸念

人口減少・高齢化による経済基盤の弱体化

都市と地方の不均衡（都市への企業や人口の集中）

## 福井の特性

長年培ったものづくりの優れた技術・技能の蓄積

中国などアジア市場への地理的優位性

子育て、教育、恐竜、農産物など多彩な地域ブランド

経済社会情勢が急激に変化する中で、福井の産業が持続的に発展していくためには、限られた地域資源を迅速かつ適切に活用し、新たな競争優位を築くための「戦略」が必要

## 福井経済新戦略

- 策定期間 平成22年12月  
(福井県経済新戦略検討会議より福井県に提出)
- 計画期間 概ね10年
- 成長目標 県内総生産額(名目) 約4兆800億円(2020年)  
名目経済成長率 年平均3%(2010年~2020年)  
雇用創出数 3万人以上(2020年) ※転換・転職を含む

### ○ 戦略体系とプロジェクト

**基本戦略1** 福井の文化と生活に根付く「ふるさと産業」の元気再生

戦略1 ふるさと産業の維持発展

プロジェクト1 「福井のこれから100年企業」育成プロジェクト

プロジェクト2 「福井型まちなかライフスタイルセンター(新しい商店街)」形成プロジェクト

戦略2 「ふくいブランド」づくりの推進

プロジェクト3 「ふくいブランド」ビジネス拡大プロジェクト

戦略3 アジアでのビジネス力の強化

プロジェクト4 「チーム福井」アジアビジネス拡大プロジェクト

プロジェクト5 アジア交流ゲート「敦賀港・福井港」活性化プロジェクト

**基本戦略2** 「新たな成長産業」の展開

戦略1 成長分野に重点を置く産業構造への転換

プロジェクト6 「福井型未来都市提案企業」創出プロジェクト

プロジェクト7 新「福井クールアース」環境・エネルギー産業化プロジェクト

プロジェクト8 「福井の健康長寿・快適生活」提案産業化プロジェクト

戦略2 農林水産ビジネスの活性化

プロジェクト9 「福井産フードビジネス」活性化プロジェクト

戦略3 観光産業の活性化

プロジェクト10 「ふるさとふくい」観光誘客強化プロジェクト

# 「プロジェクト推進行動計画」の位置づけと推進体制

## 1 プロジェクト推進行動計画の位置づけ

「福井経済新戦略」に掲げた10の主要プロジェクトを推進するため、県が経済団体・産業支援機関と連携して行う施策や事業を示した計画

計画期間 平成23年度～平成27年度（5年間）

目標設定 プロジェクトごとに重要な項目について平成27年度までに達成すべき目標を設定

## 2 プロジェクト推進行動計画の実行

プロジェクトを着実に実行するため、プロジェクトの主要事業については官民連携の「プロジェクト推進チーム」を設置

### プロジェクト推進チーム

#### 構成メンバー

- ・経済団体、関連企業の実務担当者
- ・大学などの学識経験者
- ・行政機関の実務担当者
- ・産業支援機関の実務担当者

#### 主な役割

- ・プロジェクトの具体化に向けた企画立案
- ・プロジェクトの着実な実行

#### 【23年度に設置するプロジェクト推進チーム】

- ◆ ふくい貿易促進機構事業推進チーム
- ◆ ふるさと企業育成ファンド利活用チーム
- ◆ 福井型まちなかライフスタイルセンター推進チーム
- ◆ 新たな価値提案産業創出チーム
- ◆ 敦賀港マイポート運動推進チーム

## 3 プロジェクト推進行動計画の進行管理および見直し

- 行動計画の記載内容については、毎年度、事業の成果や新たに実施する事業を加えた形で修正
- 経済・社会情勢の変化に対応するため、福井県経済新戦略推進本部での議論等を踏まえて福井経済新戦略を見直すとともに、それに沿って「プロジェクト推進行動計画」を適宜見直し

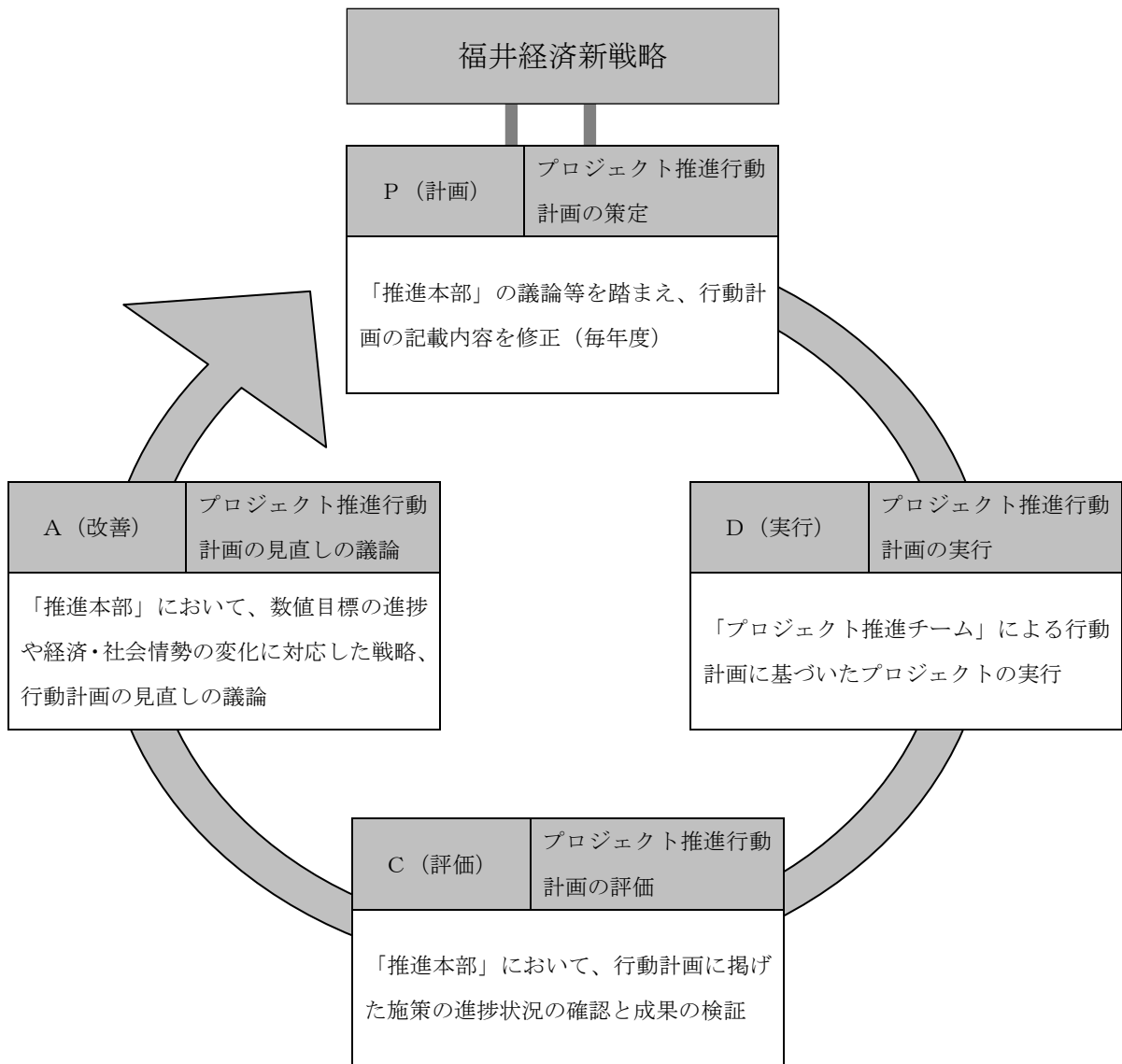
### 福井県経済新戦略推進本部

#### 構成メンバー

- ・経済団体、企業の代表者
- ・大学などの学識経験者
- ・行政機関の代表者
- ・産業支援機関の代表者

#### 主な役割

- 「福井経済新戦略」全体総括と下記の事項に関する意見・提言
- ・経済・社会情勢等に応じた戦略の見直し
- ・プロジェクト推進行動計画の策定、見直し





## **基本戦略 1**

**福井の文化と生活に根付く  
「ふるさと産業」の元気再生**

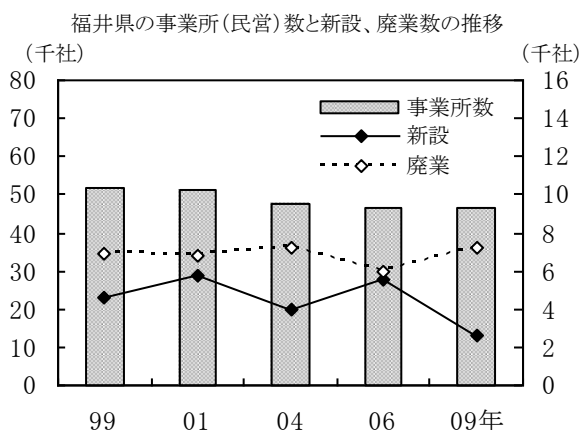
# 「福井のこれから100年企業」育成プロジェクト

## プロジェクトの概要

繊維や眼鏡、伝統産業など、福井の「ふるさと産業」を支える地場中小企業が、産地に育った技能・人材・事業を円滑に継承しながら、チャレンジ精神を持って新分野に進出する意欲的な活動に対し行政や商工会議所・商工会、ふくい産業支援センター、金融機関が「チーム福井」として連携して支援することにより、福井のこれからのを支える100年企業を創出・育成する。

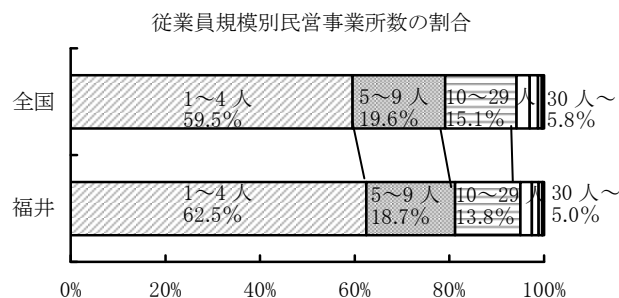
- ふるさと産業の事業、人材、技能の継承に対する支援を強化
- 経営相談・指導、金融支援、省エネ対応、受注拡大など、中小企業のような経営課題に対する支援体制を強化
- 技術や地域資源を活かして新しい分野にチャレンジする意欲ある中小企業に対し、県内金融機関と産業支援機関が連携して支援

福井の事業所数は、新設の減少と廃業の増加により、全体で減少



※新設、廃業数は前回調査以降の数値  
(出典：経済産業省「経済センサス」)

福井は全国に比べて小規模な企業の割合が高い



(出典：経済産業省「平成21年経済センサス」)

創業100年を超える老舗企業の比率

	企業数	老舗割合	全国順位
福井県	401社	3.07%	6位

(出典：週刊東洋経済 2010 11/20号)

## 23年度の主要事業

地域を担う人材の育成 (産業労働部労働政策課、教育庁高校教育課) 1,353千円【6月】

産業界と教育界が連携して「次世代人材育成会議」を開催し、職業系教育の質を向上

小規模企業支援体制強化事業 (産業労働部産業政策課) 2,800千円【6月】

商工会議所等の支援機関が連携して小規模企業への巡回訪問を実施し、経営課題に応じた相談指導を強化

新事業展開や開業に対する融資 (産業労働部商業振興・金融課) 1,800,000千円【当初】

新事業展開など経営のレベルアップを図る中小企業や開業に対して融資 (融資枠 82億円)

ふるさと企業育成ファンド事業 (産業労働部産業政策課、地域産業・技術振興課) 10,000,000千円【6月】

県内金融機関と連携して100億円のファンドを創設し、県内中小企業の新分野進出を支援

ふるさと企業育成ファンド利活用チーム

(構成：県、県内金融機関、商工会議所・商工会、ふくい産業支援センター)

伝統的工芸品新機能開発事業 (産業労働部地域産業・技術振興課) 7,313千円【6月】

伝統産業と工業技術センター等が連携して新たな分野、市場へ展開できる製品を開発



## プロジェクト推進工程表

項 目	平成23年度	平成24年度～平成27年度
<b>1 事業・人材・技能の継承</b>		
①事業継承支援制度の充実	■事業承継・後継者に関する実態調査を実施	■大手企業が県内若手経営者をトレーニングし、後継者をレベルアップ ■事業引継ぎ相談窓口における相談体制の強化
		■優れた技能を持つ熟年世代から若手に技能を橋渡しする仕組みづくり
②技能継承支援制度の充実と人材育成	■就業型インターンシップ、体験学習により伝統工芸品の後継者確保・育成を支援	
	■次世代人材育成会議の設置	■職業系高校への地域企業人の参画等による教育のレベルアップ
<b>2 経営改善・金融・販路開拓の支援体制強化</b>		
①中小企業相談・指導体制の充実	■県に小規模企業支援室を設置(5月)	■県と産業支援機関が連携し、小規模企業への巡回訪問(2年で1万社) ■課題解決のためのセミナー、交流会を内容とする一日小規模企業支援室を実施
②生産性の向上等に取り組む企業への支援強化	■県内業者に発注する前向きな設備投資に対する利子補給	
	■企業の経営コスト診断、省エネ対応のための専門家による診断・助言の実施	
	■ICT、SNSの導入による企業の生産性向上や販路開拓を支援	
③中小企業の経営基盤の強化、受注機会の増大	■最低制限価格と低入札価格調査制度における調査基準価格の引き上げ	■地元企業への発注の推進
		■「チャレンジ発注制度」の県内市町への拡大と審査・認定要件の統一
	■産業支援機関と連携し、セミナーや説明会の開催により企業のBCP(事業継続計画)作成を支援	
<b>3 チャレンジ意欲のある企業の競争力向上</b>		
①新分野に進出する企業や創業に対する支援の強化	■「ふるさと企業育成ファンド」を創設(9月)	■ファンドを活用して中小企業の新分野展開に助成(年間10社を目標) ・個別企業毎に支援チームを編成し、計画実現をフォロー
	■地域資源を活用した新商品開発等を「ふくいの逸品創造ファンド」により支援(海外への販路開拓を支援対象に追加)(年間約30社を目標)	
		■モデルとなる意欲ある企業をふくい元気企業に認証する制度を創設
	■伝統工芸品産業と工業技術センターが連携し、IH用耐熱越前焼や高耐久の打刃物など新たな分野、市場へ展開できる製品を開発	

## プロジェクトの数値目標

ふるさと産業における新事業創出数 200件(平成23～27年度累計)

# 「福井型まちなかライフスタイルセンター（新しい商店街）」形成プロジェクト

## プロジェクトの概要

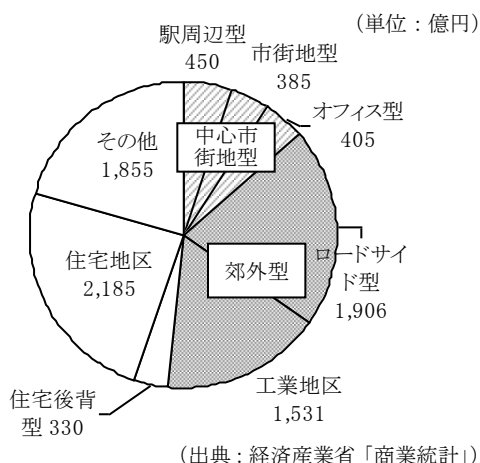
地域に集う人々のニーズに合った新しい商品やサービスの提供を通して、個性豊かなライフスタイルを提案する「福井型まちなかライフスタイルセンター（新しい商店街）」の形成を促進する。

- 元気な地域商業者が地域コミュニティと共働して進める「福井型まちなかライフスタイルセンター」の形成に対し、市町と連携して総合的に支援
- 北陸新幹線金沢開業の影響も考慮し、地域商業者等が中心となっていく、女性や若者に人気のある集客力の高い店舗や、人の集まる事業所の誘致を支援することにより、まちなかの魅力向上とにぎわいづくりを推進
- アジアからの海外観光客の需要の取り込むための環境整備を促進

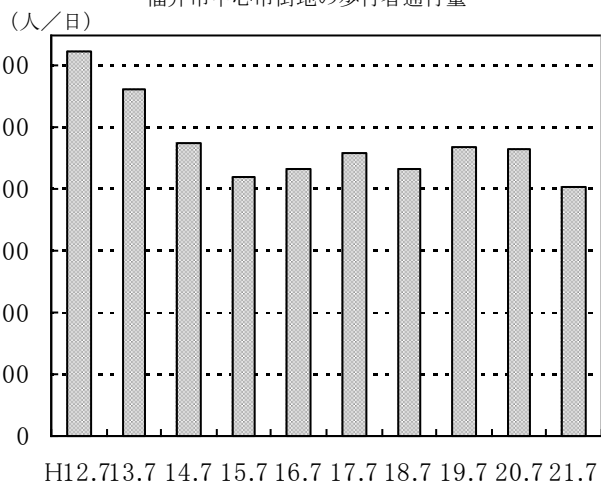
福井では商業の郊外化が進展し、中心市街地の活力が低下

福井市中心市街地の歩行者通行量は減少

福井県内の地区類型別商品販売額（平成 19 年）



福井市中心市街地の歩行者通行量



## 23年度の主要事業

福井型まちなかライフスタイルセンター（新しい商店街）の形成（産業労働部商業振興・金融課） 予算外

ライフスタイルセンターの具体的な内容等の検討を行うプロジェクトチームを設置

**福井型まちなかライフスタイルセンター推進チーム**

（構成：県、商店街振興組合、商工会議所、市町、学識経験者、消費者等）

中心市街地等空き店舗活用支援事業（産業労働部商業振興・金融課） 15,347千円【当初】

中心市街地商店街の空き店舗への出店に対し支援

商店街魅力向上支援事業（産業労働部商業振興・金融課） 予算外【基金運用】

商店街振興組合等が商店街の魅力向上のために実施するテント市等の活動に対し助成

## プロジェクト推進工程表

項 目	平成23年度	平成24年度～平成27年度
1 福井型まちなかライフスタイルセンターの形成		
①福井型まちなかライフスタイルセンターの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■プロジェクト推進チームの設置</li> <li>・県民アンケート、フィールドワークの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちなかを訪れる人々のニーズに対応した新商品やサービスを提供する商業ゾーンを県内4箇所形成</li> </ul>
②商店街の活性化を図る仕組みの構築		<ul style="list-style-type: none"> <li>■チャレンジショップや商業インターンシップ等により、まちなか起業を促進</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■県内統一消費拡大キャンペーンを実施</li> </ul>
2 「まちなか企業誘致」の推進		
①福井のまちなかニーズに合った店舗や事業所の誘致		<ul style="list-style-type: none"> <li>■まちなかに人流を誘導できる有名店舗やオフィス、専門学校等を誘致</li> </ul>
3 アジア人観光客への対応		
①外国人をもてなす環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外国語によるお買い物マップの作成・更新</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中国人観光客が使用する「銀聯カード」取扱端末の導入促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■免税店(免税コーナー)の設置促進</li> </ul>

## プロジェクトの数値目標

ライフスタイルセンターの形成箇所数 4箇所（平成23～27年度累計）

【参考】福井型まちなかライフスタイルセンターのイメージ

### 生活提案機能の集積

#### ◆新生活の創造(ライフクリエーション)

- 新鮮で良質な商品や生活が豊かになる商品提案
  - ・県内各地の逸品販売（逸品フェスタ、アンテナショップ）
  - ・学生や新規出店者によるチャレンジショップ街の形成
  - ・アンチエイジングや健康志向のメニューを揃えた惣菜店
- 個店の専門性を活かした公開講座の開設
  - ・コーヒー豆やお茶専門店による美味しいコーヒーやお茶の入れ方講座
  - ・履物店による足の診断と正しい靴の選び方講座
  - ・化粧品店によるお手軽エステ講座

#### ◆生活上の問題解決(ライフソリューション)

- 高齢者等への宅配サービス、買い物代行、御用聞き
  - ・商店街店舗での買い物商品を自宅まで届ける宅配サービス、御用聞き、高齢者の安否確認
  - ・インターネットでの商品購入の代行サービス

### 地域交流機能

#### ◆コミュニティー機能

- ・育児相談や子供の一時預かりなど子育て支援センターの設置
- ・高齢者のデイサービスやサロンの設置
- ・学生の地域活動拠点の設置
- ・地域の学校と商業者が連携し、児童への商業体験機会を提供
- ・地域のお祭りやイベントの開催

#### ◆コミュニケーション機能

- ・オープンカフェなど地域住民が交流できる場の提供
- ・来店者への気持ちのよい接客、気配りやおもてなしの充実

### 快適空間の提供

#### ◆人々が集まる心地よい空間

- ・地域のイベント等が行える広場や公園
- ・街路樹、フラッグ、ベンチなどによる美しい街並み
- ・県産材を利用した和風店舗
- ・Wi-Fiなどインターネット環境の整備
- ・街なかランニングコースとランニングステーション(シャワー、トイレ)の設置
- ・空き店舗シャッターへのアート装飾

#### ◆エコロジー機能

- ・LED街路灯の整備
- ・買い物バスの運行
- ・EVの充電設備設置、太陽光発電

# 「ふくいブランド」ビジネス拡大プロジェクト

## プロジェクトの概要

恐竜や健康長寿、学力日本一などのブランド資源を活かしてビジネス化を図る企業に対し、人材、資金、ノウハウなどの支援を行い、国内外での「ふくいブランド」の販売力と情報発信を強化する。

- 福井県のブランド資源（恐竜、学力・体力日本一など）を活用したビジネス展開を図るため、県と企業が共同で「ふくいブランド・ビジネス化推進機構（仮称）」を設置
- 首都圏において、ふくい南青山291のサテライト店を展開し、県産品の更なる販路拡大と「ふくいブランド」の発信力を強化
- 拡大する中国市場に対して、ネット業者との連携や福井にゆかりのある海外著名人等を活用して、「ふくいブランド」を発信
- 市町や映画製作会社等と連携し、映画やドラマ、ブログなどメディアやネットを活用した新しい手法によるPRを展開

<p>高い出生率 (合計特殊出生率・確定値)</p> <table border="1"> <tr><td>1位</td><td>沖縄</td></tr> <tr><td>2位</td><td>宮崎</td></tr> <tr><td>3位</td><td>熊本</td></tr> <tr><td>4位</td><td>鹿児島</td></tr> <tr><td>5位</td><td>福井</td></tr> </table> <p>「資料：厚生労働省人口動態統計 (平成21年)」</p>	1位	沖縄	2位	宮崎	3位	熊本	4位	鹿児島	5位	福井	<p>学力トップクラス (小学6年生総合順位)</p> <table border="1"> <tr><td>1位</td><td>秋田</td></tr> <tr><td>2位</td><td>福井</td></tr> <tr><td>3位</td><td>青森</td></tr> </table> <p>(中学3年生総合順位)</p> <table border="1"> <tr><td>1位</td><td>福井</td></tr> <tr><td>2位</td><td>秋田</td></tr> <tr><td>3位</td><td>富山</td></tr> </table> <p>「資料：平成22年度全国学力・学習状況調査の結果」</p>	1位	秋田	2位	福井	3位	青森	1位	福井	2位	秋田	3位	富山	<p>体力トップクラス (小学5年生男子)</p> <table border="1"> <tr><td>1位</td><td>福井</td></tr> <tr><td>2位</td><td>秋田</td></tr> <tr><td>3位</td><td>新潟</td></tr> </table> <p>(小学5年生女子)</p> <table border="1"> <tr><td>1位</td><td>福井</td></tr> <tr><td>2位</td><td>秋田</td></tr> <tr><td>3位</td><td>茨城</td></tr> </table> <p>(中学2年生男子)</p> <table border="1"> <tr><td>1位</td><td>福井</td></tr> <tr><td>2位</td><td>秋田</td></tr> <tr><td>3位</td><td>千葉</td></tr> </table> <p>(中学2年生女子)</p> <table border="1"> <tr><td>1位</td><td>福井</td></tr> <tr><td>2位</td><td>茨城</td></tr> <tr><td>3位</td><td>千葉</td></tr> </table> <p>「資料：平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」</p>	1位	福井	2位	秋田	3位	新潟	1位	福井	2位	秋田	3位	茨城	1位	福井	2位	秋田	3位	千葉	1位	福井	2位	茨城	3位	千葉
1位	沖縄																																															
2位	宮崎																																															
3位	熊本																																															
4位	鹿児島																																															
5位	福井																																															
1位	秋田																																															
2位	福井																																															
3位	青森																																															
1位	福井																																															
2位	秋田																																															
3位	富山																																															
1位	福井																																															
2位	秋田																																															
3位	新潟																																															
1位	福井																																															
2位	秋田																																															
3位	茨城																																															
1位	福井																																															
2位	秋田																																															
3位	千葉																																															
1位	福井																																															
2位	茨城																																															
3位	千葉																																															

全国トップレベルのブランドが多い中で福井の魅力・知名度は低迷

都道府県魅力度ランキング  
40位  
(資料：株式会社ブランド総合研究所「地域ブランド調査2011年」)

## 23年度の主要事業

ふくい南青山291機能強化事業（産業労働部産業政策課） 7,243千円【6月】

食品の実演・対面販売スペースの設置など、ふくい南青山291の食品販売機能を充実  
県産品中国市場販路開拓事業（産業労働部産業政策課） 2,355千円【6月】

中国の高所得者層向けにインターネット上で配信する電子販売カタログに県産品を掲載  
好機を捉えたふくいブランドの集中発信（観光営業部ブランド営業課） 38,561千円【6月】

映画、ドラマ、小説、CMロケの誘致により、ふくいブランドの情報発信を強化

## プロジェクト推進工程表

項 目	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度～平成 2 7 年度
1 ふくいブランド・ビジネス化推進機構（仮称）の創設		
①ふくいブランドのビジネス化推進		■恐竜を活用した商品開発など、ふくいブランドのビジネス化を支援
2 ふくい南青山291におけるブランド発信、販売力強化		
①ふくい南青山291とサテライト店の活動強化	■ふくい南青山291に食品の実演・対面販売スペースを設置	■サテライト店の設置・展開による販売力強化
	■首都圏向けブランド(291スタイル)の商品アイテム数の拡大	
②つながりを活かしたふくいブランドの全国展開	■ふるさと知事ネットワーク各県のアンテナショップにおいて、加工食品や伝統工芸品等の販売連携を実施	
3 中国におけるブランドの発信		
①インターネットを活用した「ふくいブランド」の発信	■インターネットや電子カタログを活用し、中国において県産品を販売	
②海外の著名人や福井とのつながりを活用した「ふくいブランド」のPR	■中国などで影響力のある著名人等と連携し、海外の番組や雑誌等でふくいブランドを発信	
4 メディアやネットを活用した新しいPR展開		
①テレビやインターネットを通じた効率的なメディア戦略	■放映効果の高い全国メディアでの継続的なブランド発信	
	■恐竜好きタレントによる「恐竜王国ふくい」のPR	
②映画・ドラマ・CMロケの誘致	■企業とのタイアップによる番組やCMロケ、映画の誘致活動を展開 ・福井を舞台とした映画の脚本製作に対し助成	

## プロジェクトの数値目標

ブランド・ビジネスの売上規模	4,000万円超（平成27年度）
ふくい南青山291の売上高	1億770万円（平成22年度）⇒ 2億5,000万円（平成27年度）

# 「チーム福井」アジアビジネス拡大プロジェクト

## プロジェクトの概要

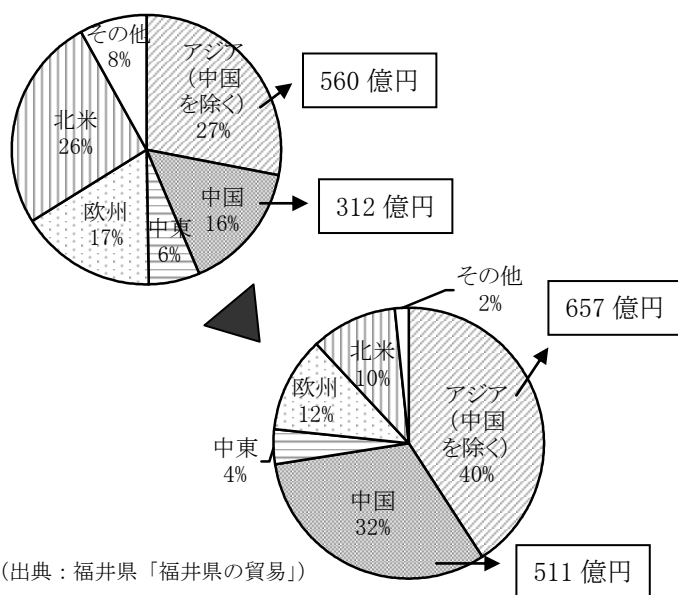
県と経済界、産業支援機関等が連携して「ふくい貿易促進機構」を設置し、アジア市場での販路開拓を図る県内企業に進出段階に応じた支援プログラムを提供し、成長するアジア市場の活力の県内への取り込みを図る。

- 中国上海に「ふくい上海ビジネスサポートセンター」を設置し、中国市場に進出する県内企業のトラブル解決や、既に進出している企業が相談に応じるネットワークの構築等によりサポートを強化
- 県内にアジア市場開拓に向けたワンストップ窓口となる「ふくい貿易促進プラザ」を設置し、今後海外市場を開拓しようとする県内企業を支援
- インドネシアをはじめとする東南アジア等の新興国の市場調査等を行い、市場開拓や進出を支援
- 中国ビジネスのノウハウを持つ台湾経済界や友好提携をしている浙江省等との連携を強化し、中国市場の進出・販路拡大を支援

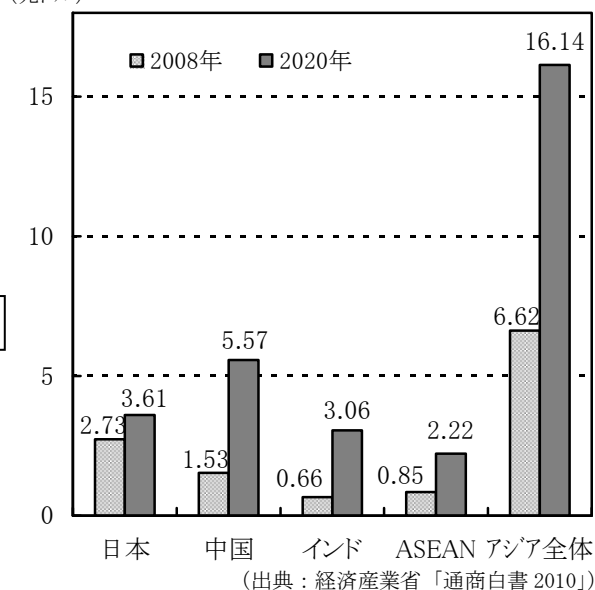
輸出相手としてのアジアの比重が大幅に拡大

アジアの消費は今後も大きな伸びが見込まれる

福井県の輸出相手国の変化 (1998年→2009年)



アジアの個人消費額の実績と予測 (兆ドル)



## 23年度の主要事業

ふくい貿易促進機構設置運営事業 (産業労働部産業政策課) 12,108 千円【6月】

官民が連携して「ふくい貿易促進機構」を設立し、中国をはじめとするアジア市場の開拓を図る県内企業を支援するとともに、台湾やベトナム、タイなどの市場調査等を実施

ふくい貿易促進機構事業推進チーム

(構成: 県、経済界、ジェトロ、ふくい産業支援センター)

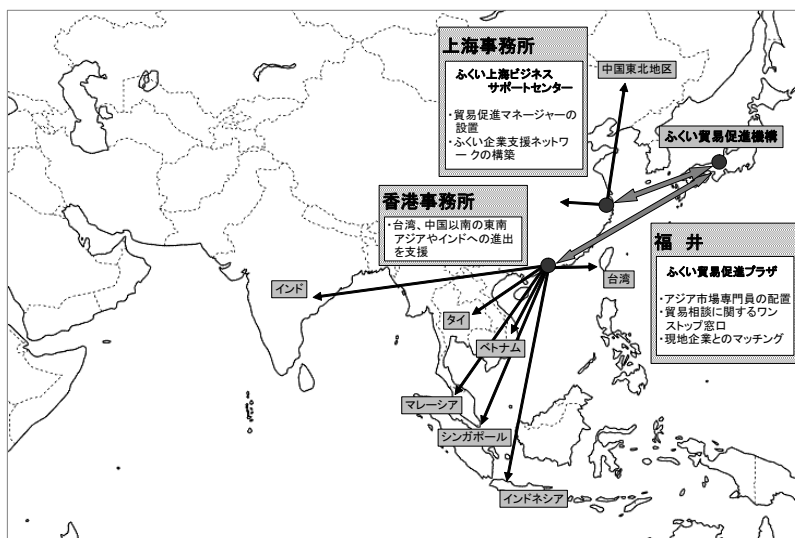
県産品中国市場販路開拓事業 (産業労働部産業政策課) 2,355 千円<再掲>

## プロジェクト推進工程表

項 目	平成23年度	平成24年度～平成27年度
1 企業の進出段階に応じた支援プログラムの提供		
①ふくい貿易促進機構による企業の進出段階に応じた支援の実施	■「ふくい貿易促進機構」を設置(9月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ふくい貿易促進プラザ(福井商工会議所内)の設置                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア市場専門員の配置によるワンストップ相談</li> <li>・現地大手企業を招いたマッチング支援</li> </ul> </li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ふくい上海ビジネスサポートセンター(上海事務所内)の設置                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・貿易促進マネージャーによる専門相談</li> <li>・企業支援ネットワークによるビジネス慣習等の助言</li> <li>・主要展示会への出展支援による市場開拓</li> </ul> </li> <li>■東南アジア等新興国の市場開拓                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・インドネシア等の市場調査、投資環境等の情報提供</li> <li>・福井の産品をPRする現地フェアの開催</li> </ul> </li> </ul>
②アジアビジネス拡大に向けた多様な支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>■アジア市場に関心が高い業種・業態を調査し、企業マッチング等の支援を実施</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■欧米でのブランド展開を通じた国際的評価の向上によるアジア市場の拡大</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■県内企業の海外展開に対する資金面での支援</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>■県立大学地域経済研究所における、アジア諸国の経済情勢や市場に関する調査研究の充実強化</li> <li>■アジア人材基金の創設により、アジア等で活躍できる人材を育成</li> </ul>
2 台湾ネットワーク等の活用		
①台湾等の経済界、日系先行企業等との連携強化による販路拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>■連携強化に向けたミッションの派遣、展示会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■台湾大手メーカー等とのものづくり商談会により中国向けルートを開拓</li> </ul>
②浙江省との交流を活かした販路拡大		<ul style="list-style-type: none"> <li>■「福井県・浙江省経済交流促進機構」による商談会、ビジネスマッチングの開催</li> </ul>

## プロジェクトの数値目標

アジア向け輸出額 1,168億円(平成21年) ⇒ 1,600億円(平成27年)



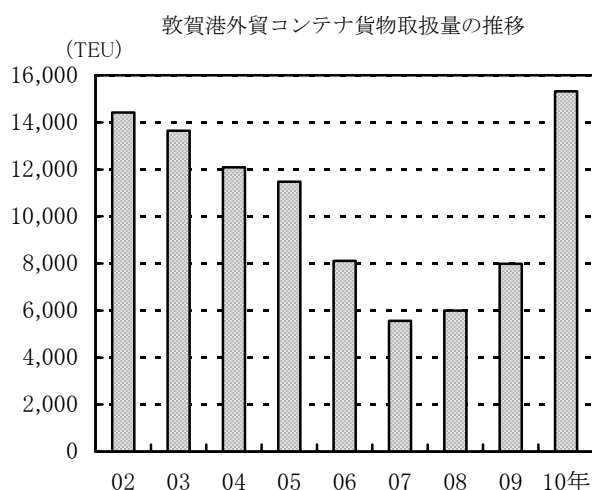
# アジア交流ゲート「敦賀港・福井港」活性化プロジェクト

## プロジェクトの概要

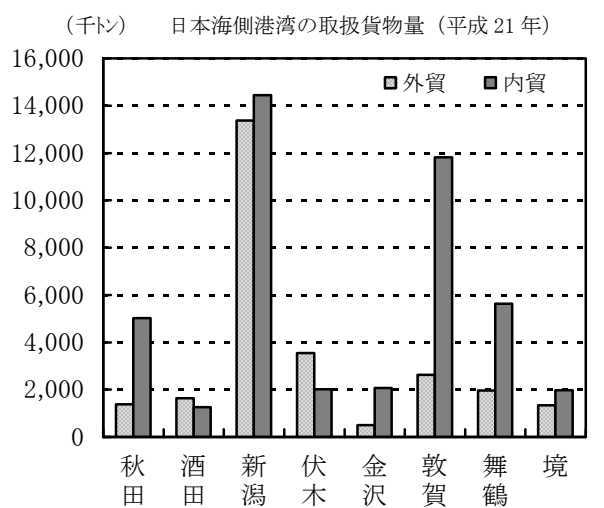
日本海を内海として北東アジアと向き合う福井の地勢を活かし、県と市、港湾事業者、県内大口荷主、物流関係企業等が連携して、県内港湾の利用促進を図り、新たな航路開設など中国や韓国、ロシアとの環日本海物流ネットワークを構築することにより、アジアを中心とする海外とのビジネス拡大を図る。

- 敦賀港、福井港の利用拡大に向け、官民一体となってポートセールスを実施
- 市場が拡大する中国やロシアなど近隣諸国との経済交流の促進や、船会社等へのインセンティブ拡大により、新たな航路を開設
- 日本海側の拠点として、敦賀港の取扱貨物量の増加に向けた調査と物流環境を整備
- 福井港の広い埠頭を活用した物資集積拠点化や合積み輸送を推進

敦賀港の外貿コンテナ貨物取扱量は近年大きく増加



外貿と内貿を合わせた敦賀港の取扱貨物量は日本海側第2位



出典：国土交通省「港湾統計（年報）」

## 23年度の主要事業

### 敦賀港マイポート運動の推進（産業労働部企業誘致課） 予算外

県内の経済団体や企業が参加する敦賀港マイポート運動推進チームを設置し、官民共働のポートセールスを強化

#### 敦賀港マイポート運動推進チーム

（構成：県、市、港湾事業者、県内大口荷主、運輸業者、船会社等）

### 敦賀港利用拡大事業（産業労働部企業誘致課） 21,415千円【当初】

中国航路の新規開設に向けて、船会社とこれを利用する大口荷主に対し助成

### 敦賀港国際RORO船利用拡大モデル事業（産業労働部企業誘致課） 1,923千円【当初】

JR貨物のネットワークと国際RORO船を組み合わせた韓国釜山との輸送実験を実施

### 福井港貨物集荷促進事業（産業労働部企業誘致課） 1,500千円【当初】

取扱貨物量を増加させた福井港利用企業に対し、利用実績に応じて助成



## プロジェクト推進工程表

項 目	平成23年度	平成24年度～平成27年度
<b>1 県内外企業の利用促進</b>		
①県内港湾を利用する企業への支援体制強化	■敦賀港マイポート運動を官民あげて推進する体制を強化	■官民共働により国内外へのポートセールスを強化
	■敦賀港、福井港を新規または拡大して利用する企業への助成と利用対象企業のすそ野拡大	
②県外の港湾や国内物流ネットワークとの連携による集荷拡大	■東京、名古屋、大阪等における事業所懇談会の開催や大規模展示会への参加による県内港湾のPRと利用企業の発掘	
	■国際RORO船と内航RORO船やJR貨物ネットワークを組み合わせた実証実験	■内外RORO船の連携等による高速輸送の確立
③県内港湾の利用を促進する企業の誘致	■敦賀港鞠山南地区の港湾関連用地に港湾の利用を促進する企業の誘致活動を展開	
		■舞鶴若狭自動車道の全線開通に向けた物流企業の誘致推進
<b>2 物流活性化のための海外経済交流の促進</b>		
①近隣諸国との経済交流を促進		■経済ミッションの派遣等による新規航路開拓に向けた活動の強化 ■韓国企業へのポートセールスの実施
<b>3 日本海側拠点港としての機能充実（敦賀港）</b>		
①日本海側拠点港の選定と施設整備の推進	■日本海側拠点港(国際RORO船)の選定	■貨物の増加や新たな貨物に対応できる物流基盤の整備
②新たな貨物の確保		■新たな需要開拓による取扱貨物量の拡大に向け、ロシア等のニーズ調査を実施
③韓国、中国向け定期航路の拡大	■日本海横断航路開設に向けた敦賀市と中国・琿春市との作業部会への参加	
	■中国航路の新規開設に向けた船会社、大口荷主に対する助成	■韓国、中国との定期航路の拡大
<b>4 物資の集積基地化と合積み輸送の推進（福井港）</b>		
①広い埠頭を活用した物資の集積基地化と合積み輸送の推進	■原材料や燃料などの集積基地化を推進	
	■ロシア向け等のパルク貨物の合積み輸送を推進	

## プロジェクトの数値目標

敦賀港外貿定期コンテナ航路貨物取扱量	
	15,319TEU（平成22年）⇒37,000TEU（平成27年）
福井港貨物取扱量	
	157万t（平成22年）⇒185万t（平成27年）



## **基本戦略 2**

### **「新たな成長産業」の展開**

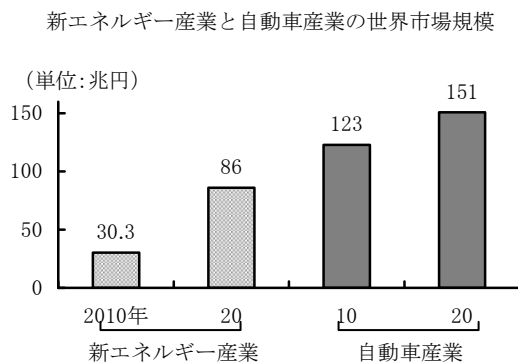
# 「福井型未来都市提案企業」創出プロジェクト

## プロジェクトの概要

新エネ・省エネ関連産業や健康・快適生活産業などの成長市場へ進出する県内企業の研究開発、事業化を支援するとともに、県外から投資を呼び込む新たな優遇支援システムの整備により、本県産業構造の成長分野へのシフトを図る。

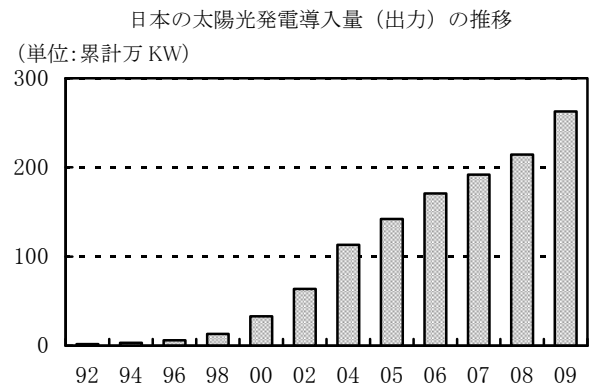
- 東日本大震災後のリスク分散等の企業活動に対応し、豊富な水や勤勉な労働力、安価な電気料金など本県の優位性を活かした企業誘致活動を強化するとともに、新エネ・省エネ関連産業など成長分野の県外大手企業の県内立地を促進する制度を拡充
- 併せて、県外・海外からの人材が仕事に専念できる生活環境の情報を提供
- 次の成長を先取りする新たな製品の開発に向け、企業連合による研究開発・実用化を県や大学、工業技術センター等が連携して支援
- 研究開発に当たっては、福井県経済新戦略推進本部において市場ニーズを捉えたテーマ設定を行うとともに、研究資源（人材、資金）の集中投入により実用化までの期間を短縮
- 県内金融機関の協力を得て、新分野展開を行う中小企業のスタートアップ資金支援制度を創設
- 低炭素のまちづくりを通して、二酸化炭素削減から生じる新たな需要を県内企業のビジネスへ取り込み

新エネルギー産業の市場規模は10年間で2.8倍に拡大



(出典：H23.9.17日付け日本経済新聞)

太陽光発電の導入量は近年大きく増加



(出典：電気事業連合会資料)

## 23年度の主要事業

### 「福井県企業立地推進戦略本部」の設置（産業労働部企業誘致課） 予算外

副知事をトップとする戦略本部を設置し、東西エリア別にターゲットを明確にした攻めの企業誘致を展開

### 企業立地促進補助金（産業労働部企業誘致課） 506,711千円【当初・6月】

県内に新たに立地または増設を行い、かつ正規雇用を行う企業の投資等に対し助成

### 従業員転入支援窓口の設置（産業労働部企業誘致課） 予算外

誘致企業の従業員に対するワンストップ窓口を設置（企業誘致課、東京事務所、大阪事務所）

### 新成長産業創出事業（産業労働部地域産業・技術振興課） 37,000千円【6月】

EV車用炭素繊維や太陽光電池を織り込んだテキスタイルなど、新たな価値を提案し需要を創造するニューパラダイム製品の開発を促進

### 新たな価値提案産業創出チーム

(構成：県、県内大学・高専、県内企業等)

## プロジェクト推進工程表

項 目	平成23年度	平成24年度～平成27年度
<b>1 県外企業の誘致</b>		
①エリア別担当等の導入による企業誘致体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■福井県企業立地推進戦略本部を設置(5月)</li> <li>■国内東西エリア別の営業本部を設置し900社に企業訪問</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東西エリア別にターゲットを絞った誘致活動と誘致後のフォローアップを実施               <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本 太陽光発電、LED、蓄電、IT、レアアース・レアメタルリサイクル</li> <li>・西日本 化学・素材系企業、太陽光、蓄電</li> </ul> </li> </ul>
②複軸型国土構造の形成に向けた企業誘致の促進	■ふるさと税調の議論を通じて、企業の地方への分散立地を促す優遇制度の国への提案、県独自制度の検討・導入	
③戦略的企業誘致の展開	■工場跡地や遊休地の有効活用による産業用地の造成など、新産業エリア創出に向けた市町との連携を強化	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■嶺南地域における新産業エリア等の創出</li> <li>■テクノポート福井の未操業地に再生可能・高効率エネルギー関連施設を誘致</li> </ul>	
④県外からの産業人材が安心して生活できる情報提供、支援	■福井、東京、大阪に生活相談のためのワンストップ窓口を設置	■誘致企業の従業員等の生活に役立つパンフレット等の作成と出前相談を実施
<b>2 県内企業の技術開発・革新型企業の創出支援</b>		
①ニューパラダイム製品創出のための研究開発を支援	■新たな価値提案産業創出チームを設置(11月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■県独自の研究開発プロジェクトを県外大手も巻き込んだ企業連合により推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふくいの技術を活用したEV車用炭素繊維 平成26年度の量産化技術確立</li> <li>・太陽電池を織り込んだテキスタイル 平成25年度の量産化技術確立</li> </ul> </li> </ul>
②産学官連携における研究開発期間の短縮		■成長分野における産学官共同プロジェクトに人材と資金を集中投入
③試験研究設備の民間企業の利用拡大	■ふくいグリーンイノベーションセンター等に設置した最先端の試験装置、計測・分析機器等の県内企業の利用促進	
<b>3 成長分野への事業展開支援</b>		
①成長分野への進出や起業に対する負担軽減制度の充実	■「ふるさと企業育成ファンド」を創設(9月)	■ファンドを活用して成長分野に進出する企業(第二創業を含む)に対し資金支援
②インキュベートシステムの充実	■産業支援センター等の活用によるインキュベーション施設の提供	
	■支援を受けた企業が利益安定後に地域に貢献するシステムの検討・導入	
<b>4 低炭素の街づくり</b>		
①「低炭素の街づくり」の推進	■「嶺南西部地域低炭素の街づくり推進協議会」の設置	■高浜、おおいを中心に、先進的な再生可能エネルギーや省エネルギー関連技術を集積し、住民がメリットを実感できる街づくりを推進

## プロジェクトの数値目標

成長分野に展開する企業の新規誘致	15社(平成23～27年度累計)
成長分野への企業の進出・創業	25社(平成23～27年度累計)

# 新「クールアース」環境・エネルギー産業化プロジェクト

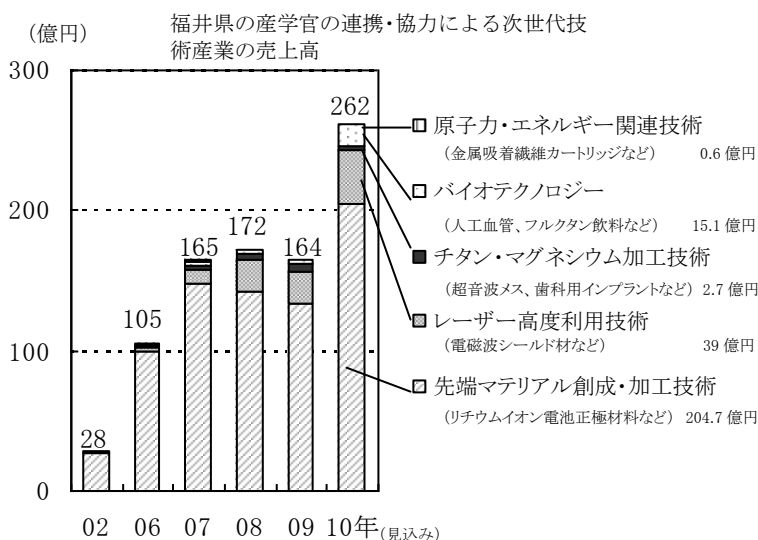
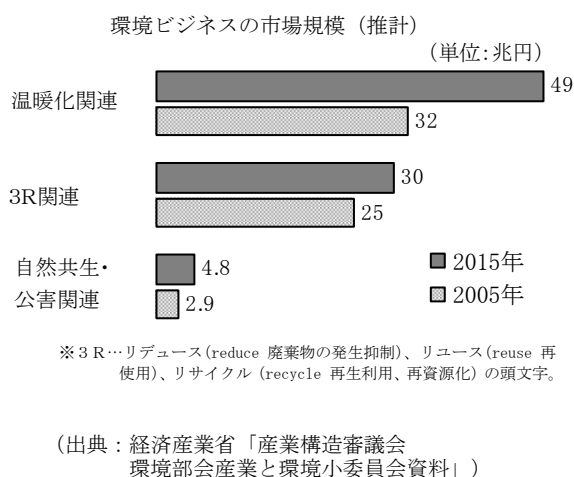
## プロジェクトの概要

県内大学や工業技術センター等の試験研究機関と連携し、先端技術を持つ県内企業と県外大手等の共動による新エネ・省エネ分野での研究開発や人材育成を進め、官民一体となって産業化を推進する。

- 県外大手と誘致企業・地元企業による新エネ・省エネなどの産学官共同研究開発を重点的に推進
- 県内金融機関の協力により創設したファンドや人材育成拠点を活用して、高度産業技術・研究人材を確保・育成
- 大手商社との戦略提携等により、研究開発成果の事業化・産業化を促進

環境ビジネスの市場規模は今後大きく拡大

環境・エネルギー分野など次世代産業の売上高が拡大



## 23年度の主要事業

### 次世代エネルギーデバイス創生による地域イノベーションへの取組み

(産業労働部地域産業・技術振興課) 予算外【文科省補助】

大型二次電池関連等の研究者招聘と研究成果を事業化に結びつけるコーディネーターの配置による研究開発支援体制の強化 (補助金額 1億円)

### 福井クールアース・次世代エネルギー産業化プロジェクト (産業労働部地域産業・技術振興課) 2,123千円【6月】

「ふくいグリーンイノベーションセンター」を活用し、産学官が連携して次世代エネルギー技術の研究開発を推進 (研究開発費 約1.2億円、経産省委託)

### 次世代技術製品開発支援補助金 (産業労働部地域産業・技術振興課) 66,324千円【当初】

環境エネルギー、医療・福祉分野など成長分野への事業展開を目指す中小企業の技術開発から商品開発、販路開拓までを一貫支援 (23年度採択10件 うち環境エネルギー、医療・福祉分野7件)

### ふるさと企業育成ファンド事業 (産業労働部産業政策課、地域産業・技術振興課) 10,000,000千円<再掲>

ファンド運用益を活用して、県内ものづくり企業への就職を希望する理工系大学院生に修学資金を貸与 (20人/年)

### ふくい新技術展示商談会開催事業 (産業労働部地域産業・技術振興課) 7,903千円【6月】

県外大手企業に県内企業の優れた技術・製品を直接売り込む展示商談会を開催

## プロジェクト推進工程表

項 目	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度～平成 2 7 年度
1 産学官による研究開発		
①新エネ・省エネ関連の研究開発、実用化を推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■次世代エネルギーに係る産学官共同研究開発の推進               <ul style="list-style-type: none"> <li>・燃料電池セパレータ</li> <li>・蓄電関連技術(大型リチウムイオン電池、蓄電システム)</li> <li>・低炭素交通システム</li> <li>・バイオマス資源活用</li> </ul> </li> <li>■環境・エネルギー分野において中小企業が行う技術開発から事業化までの取組みに対し助成(補助率2/3以内)</li> <li>■大型二次電池関連等の研究者招聘と研究成果を事業化に結びつけるコーディネーターの配置による研究開発支援体制の強化</li> </ul>	
②エネルギー研究開発拠点化計画に基づく研究開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■原子力防災・危機管理機能の向上、エネルギー源の多角化等に関する研究開発の推進</li> </ul>	
2 高度産業技術・研究人材育成		
①研究開発人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「ふるさと企業育成ファンド」を活用し奨学金制度を創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■理工系大学院生への修学資金の貸与による研究人材の確保・定着(県内ものづくり企業に継続して7年間勤務した場合は返還免除)</li> </ul>
②企業内人材育成拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「ふくいグリーンイノベーションセンター」において、県内企業や学生に先端技術の研修・再教育を実施</li> </ul>	
③サイエンス教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大学や研究機関等と連携した「スーパーサイエンスクラブ」の設置や、サイエンス博士の派遣により小中高生の実験や研究活動、理数授業を充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■工業技術センターに研究成果の展示スペースを設置</li> </ul>
④国際原子力人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際原子力人材育成センターを中心に、国内外の研修生を受け入れ、安全面における原子力人材を育成</li> </ul>	
3 事業化・産業化の促進		
①大手商社、研究開発型企業との戦略提携による事業化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大手商社との戦略提携により、研究開発成果の早期の事業化を支援</li> <li>■電力事業者とタイアップし、ミディマトなどのヒートポンプ園芸農業のビジネス化を推進</li> <li>■国内大手企業との技術商談会の開催</li> <li>■国内中堅企業との膝詰め商談会や海外企業への対象拡大による商談会の新展開</li> </ul>	
②新エネ・省エネ関連や資源リサイクル企業の立地促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■太陽光発電や蓄電など新エネ・省エネ関連やレアメタル等の資源リサイクル企業に重点を置いた企業誘致を推進</li> <li>■廃棄物の排出業者や処理業者、試験研究機関などが一体となって、廃棄物を資源として循環させ商品化を行うリサイクルループを構築</li> </ul>	
③クラウドコンピューティングの基盤となるデータセンターの集積化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■電力事業者と連携して、データセンターの嶺南への誘致活動を強化</li> <li>■データセンターの業務に必要な知識や技術を有する人材を育成</li> </ul>	

## プロジェクトの数値目標

新エネ・省エネ分野など次世代産業における県内企業の売上額

262億円(平成22年度) ⇒ 1,500億円(平成27年度)

# 「福井の健康長寿・快適生活」提案産業化プロジェクト

## プロジェクトの概要

健康長寿、子育て日本一など、特徴ある福井のライフスタイルを活かした製品・サービスの開発・実用化を進める企業への支援を強化し、新たなビジネスの創出を図る。

- 医療機関と県内企業の連携による新商品開発・実用化を支援し、「福井の技を健康に活かす」産業・ビジネスを育成
- 県内農業者と企業の農商工連携による、福井で生産される農産物を活かした健康志向食品ビジネス等の開発を支援
- 子育て支援や高齢者の生活支援などのコミュニティビジネスを地域住民や企業家、自治体等が応援し、福井型「健康・快適生活」ビジネスを育成

### 3世代世帯の割合

全国2位 20.2%  
(出典：H17国勢調査)

### 女性の就業率

全国1位 51.6%  
(出典：H17国勢調査)

### 平均寿命（男性）

全国4位 79.5歳  
(出典：H17都道府県別生命表)

### 共働き率

全国1位 58.2%  
(出典：H17国勢調査)

### 合計特殊出生率

全国5位 1.55%  
(出典：H21人口動態統計)

### 平均寿命（女性）

全国11位 86.3歳  
(出典：H17都道府県別生命表)

福井特有のライフスタイルによるニーズをビジネス化

## 23年度の主要事業

### ICタグテキスタイルの開発（産業労働部地域産業・技術振興課） 19,921千円【当初】

高齢者の位置確認に役立つICタグを織編物に自動で配置できるICタグテキスタイル製造技術を開発

### 脳卒中患者に対する上肢機能訓練用医療機器の開発（産業労働部地域産業・技術振興課） 予算外【経産省委託】

医工連携により脳卒中患者用運動訓練ロボットなどのリハビリシステムを開発  
(研究開発費 約1億円)

### ふくい逸品創造ファンド事業（産業労働部産業政策課） 予算外【基金運用】

福井の農林水産品、観光資源など地域資源を活かした新商品開発と販路開拓を支援  
(基金運用益 約85,000千円/年)

### 次世代技術製品開発支援補助金（産業労働部地域産業・技術振興課） 66,324千円<再掲>



## プロジェクト推進工程表

項 目	平成 2 3 年度	平成 2 4 年度～平成 2 7 年度
1 「福井の技を健康に活かす」ビジネス育成（医工連携による産業創出）		
①高齢者のニーズをビジネス化する新商品の開発・実用化	■ICタグテキスタイル製造技術を開発	■ICタグテキスタイル製造技術の県内企業移転による商品化を支援
	■小型電気自動車による高齢者生活の実証実験	■実験結果に基づく小型電気自動車の開発・製造を支援
②県産医療福祉機器・システムの積極的な開発・実用化	■福井工業大学と県内企業の連携による脳卒中患者用リハビリ支援システムの開発、実用化	
		■眼鏡など本県技術を活用した医工連携による医療機器の開発を支援する体制を構築
③原子力関連技術を活かした先端医療の実現	■陽子線とエックス線の混合照射による治療システムや分割照射技術、乳がん治療法の開発	
	■若狭湾エネルギー研究センターにおける原子力関連技術の研究・開発	
2 健康志向食品ビジネス育成（農商工連携によるビジネス開発）		
①福井の農産物を活用した健康志向食品の開発	■食品加工研究所と大学の連携によりラッキョウフルクタン健康への効果を解明	■県内企業への技術移転により特定健康保健用食品の開発を支援
②農商工連携の手法による新たなビジネスモデルの創出	■ふくいの逸品創造ファンド等を活用し、農商工連携による新商品開発・販路開拓を支援	
3 福井型「健康・快適生活」ビジネス育成（ライフスタイルの特色をビジネス化）		
①地域ニーズに応える企業やコミュニティビジネスを支援	■配食サービスや移動販売など高齢者や障害者の日常生活を支える事業を支援	
		■コミュニティビジネス等を資金面から支援する「ふるさと企業支援市場(仮称)」のモデルを構築
②福井特有のライフスタイルによる需要喚起	■子育て家族の需要を県内事業者のビジネス拡大につなげるママ・ファースト運動(すまいるFカード等)の協力店舗拡大と県民への普及を推進	

## プロジェクトの数値目標

企業連携ビジネスやコミュニティビジネスによるビジネス創出数 50件（平成23～27年度累計）

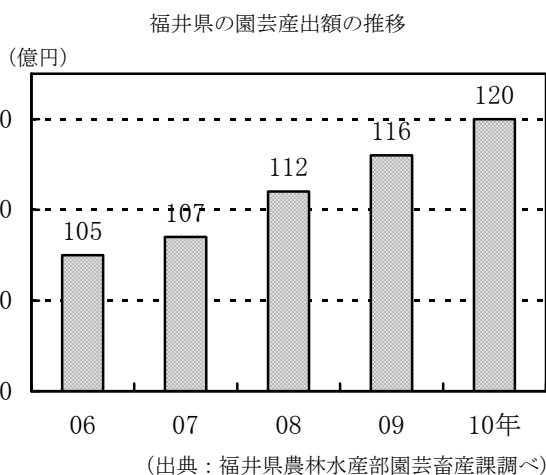
# 「福井産フードビジネス」活性化プロジェクト

## プロジェクトの概要

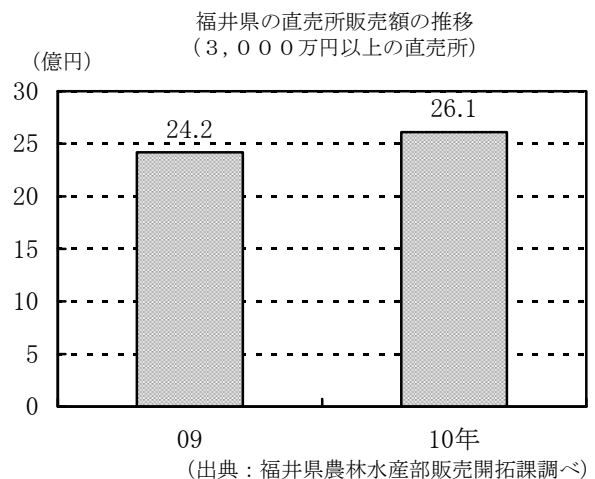
消費者に選ばれるおいしい米づくりを中心とした農林水産物の品質向上や、都市圏での積極的な外商活動等による県産食材の販路拡大など、福井産フードビジネスの活性化を推進する。

- 農林水産物の品質向上および生産・加工・販売の一体化（6次産業化）により付加価値を向上
- 県とJA、漁連等が協働して、県産食材の販売促進を図る「地産外商」を推進
- 県産食材の安定した消費を確保する「地産地消」を支援
- 企業的な園芸経営を行う法人の参入促進やマーケット指向型企業的農業法人を育成
- 県内農林水産物の活性化を図るため、新規就業者の確保を支援

企業的園芸の拡大や新品目の作付け拡大等により、近年、園芸産出額が増加



県内の農産物直売所の販売額は拡大傾向



## 23年度の主要事業

おいしい福井米づくり事業（農林水産部水田農業経営課） 463,135千円【6月】

良食味米の生産に必要な機械や区分出荷等に必要な設備導入に対し助成

水田農業活性化事業＜6次産業化分＞（農林水産部販売開拓課） 20,620千円【6月】

農産物の生産と加工、流通を行う意欲ある経営体への施設等の導入に対し助成

「地産外商」フードビジネス推進事業（農林水産部販売開拓課） 29,863千円【当初・6月】

高級飲食店やホテルが行う県産食材調達支援やインターネット通販サイトを開設

企業的園芸参入支援事業（農林水産部園芸畜産課） 73,864千円【6月】

新たに企業的園芸を目指す農業生産法人や一般法人の施設整備等に対し助成

## プロジェクト推進工程表

項目	平成23年度	平成24年度～平成27年度
<b>1 農業の6次産業化推進</b>		
①消費者に選ばれる福井米づくり	■食味検査に基づく区分集荷・出荷体制を整備し、価格アップを目指したおいしい福井米の評価向上	
	■農業試験場における「ポストこしひかり」の開発	
	■県下全稲作農家のエコファーマー化の推進	
②生産・加工・販売の一体化による付加価値の向上	■試験研究機関が開発した加工技術や鮮度保持技術等を活用しながら集落営農組織や漁業者グループ等の6次産業化を促進	
	■意欲ある農林漁業者と加工業者等を結びつけるなど、新しいふくいブランドとなる商品の開発を支援	
	■6次産業化に関する研修会等を通じてアグリビジネスを実践する人材を育成	
③加工・業務用などに対応した農産物の生産拡大	■水田を活用した大規模園芸を行う集落営農組織等の育成	
	■消費者に対する試食やPR活動により、「伝統の福井野菜」の生産振興や、流通・消費を拡大	
④漁業と観光のトータル化	■日本一多い漁家民宿を活かし、観光客に喜ばれる体験漁業メニューなどの拡充を支援	
<b>2 健康長寿のふくいの農産物販売促進（地産外商）</b>		
①積極的な外商活動を展開し販路を拡大	■都市圏の飲食店等への積極的な外商活動(アタック100)を展開し、県産食材使用店の拡大と定着を推進	
	■バイヤーを産地に招く「産地視察型商談会」や生産者が都市圏へ出向く「都市圏商談会」を開催	
②他県や大手企業との共同販売による県産食材のブランド力アップ	■ブランド力のある大手食品メーカーとのコラボレーションにより、福井県産食材を全国にPR	
	■「ふるさと知事ネットワーク」を活用した加盟県間の相互販売と出向宣伝	
<b>3 アグリビジネス展開（地産地消）</b>		
①農産物直売所の充実、量販店内への地場産コーナーの設置により県産農産物の販売促進	■「福井県農産物直売所ネットワーク」を設置	■品揃えの充実等(鮮魚・水産加工品)により直売所の魅力アップを図り販売額を拡大
	■生産者と量販店が連携した「地域産直システム」や、新たな品目の生産により販売額を拡大	
②県産農産物の一層の消費拡大	■大量に農産物を消費する社員食堂、病院、福祉施設に対し、県産農産物の使用を促進	
<b>4 企業的農業法人等の育成</b>		
①マーケット指向型企業的農業法人の参入促進と育成	■施設園芸を行う農業生産法人等を支援し、企業的農業経営体へ育成	■大規模施設園芸や植物工場などに取り組む企業的農業法人等の参入促進
②集落営農組織等の経営基盤を強化	■農地集積を支援し、集落営農組織、農業生産法人、認定農業者等の経営基盤を強化	
<b>5 新規就農者支援</b>		
①農林水産業への新規就業者の確保	■就業支援を社団法人ふくい農林水産支援センターに一元化し、就業希望者の募集から経営開始までを総合支援	

## プロジェクトの数値目標

園芸産出額	120億円（平成22年度）⇒ 150億円超（平成27年度）
県内直売所の売上高	26.1億円（平成22年度）⇒ 30億円超（平成27年度）

# 「ふるさとふくい」観光誘客強化プロジェクト

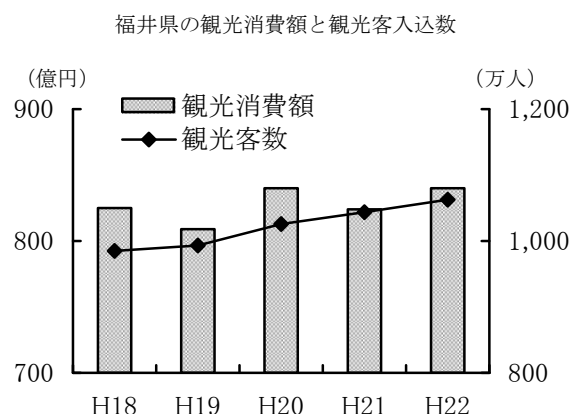
## プロジェクトの概要

県と市町、観光連盟、観光関係企業等が連携し、地域資源を活かした観光拠点の整備・ルート化、もてなし産業化等による観光のレベルアップを図るとともに、アジアをターゲットとした誘客を強化することにより、観光産業の活性化を図る。

- 北陸新幹線金沢開業と舞鶴若狭自動車道の全線開通による大きな人の流れの変化を的確に把握し、関東や信越、中京・関西以西に対する誘客を強化
- 新たな観光拠点の整備や歴史資源・広域観光拠点のルート化などによる観光のレベルアップ
- 県内観光関連企業が行うもてなし向上のための活動や地域自らの企画募集による着地型観光を支援し、観光満足度を向上
- 中国や台湾などでのトップセールスの実施により、アジアからの誘客を強化

福井の観光客入込数、観光消費額はともに増加傾向

北陸3県の中で、福井は観光客入込数、観光消費額ともに少ない状況



北陸3県の観光消費額と観光客入込数 (H21)

	観光消費額	観光客入込数
石川県	2,630 億円	2,072 万人
富山県	約 2,000 億円	1,774 万人
福井県	824 億円	1,044 万人

(出典：各県観光統計資料)

## 23年度の主要事業

**観光立県プロジェクト推進事業（観光営業部観光振興課） 2,977 千円【6月】**

北陸新幹線金沢開業や舞鶴若狭自動車道全線開通に伴う誘客に向けた、海と湯けむり観光プロジェクト、若狭湾岸ハイウェイ観光プロジェクト等の地域別プロジェクトを検討・推進

**もてなし産業化推進事業（観光営業部観光振興課） 7,980 千円【6月】**

県内産業全体の「もてなし産業化」を進めることで観光分野の収益を拡大

**アジア観光プロモーション事業（観光営業部観光振興課） 6,857 千円【6月】**

台湾においてトップセールスや現地商談会を開催し誘客を拡大

## プロジェクト推進工程表

項 目	平成23年度	平成24年度～平成27年度
<b>1 交通インフラに対応した誘客強化</b>		
①新高速交通ネットワークの整備を見据えた誘客活動の展開	■北陸新幹線金沢開業と舞鶴若狭自動車道の全線開通による影響を分析	■ディステーションキャンペーンなどにより、関東や信越、中京・関西以西に対する誘客活動を強化
②小松空港を活用した誘客の拡大	■国内外からの福井の空の玄関口としての小松空港(金沢・福井)のPR徹底と同空港を利用した旅行商品の開発、売り込み	
<b>2 観光のレベルアップ</b>		
①ハード、ソフト両面からの観光投資を強化	■観光立県推進会議の設置 ・地域別プロジェクトの検討	■若狭湾岸ハイウェイ観光プロジェクトの推進 ・漁家民宿を核とした海のツアーの展開や、伝統的まちなみ等を活用した観光地づくり
		■海と湯けむり観光プロジェクトの推進 ・体験型プログラムを充実させた温泉泊覧会(オンパク)の拡大や、観光地を周遊する交通システムの充実
		■恐竜キッズランド構想の推進 ・恐竜化石発掘現場の野外博物館化、恐竜レプリカ体験工房やまちなかの恐竜ショップなどの整備促進
②周辺の県外自治体との連携による広域観光の展開	■転泊商品拡大、県境を越える観光タクシー運行開始、サイクリングイベント開催 ■杉原千畝、食文化を活用したPR	■石川県、岐阜県、滋賀県、京都府等との広域旅行商品の開発、連携イベント、二次交通の整備などを実施
③ニューツーリズムの創出による新たな観光需要の拡大	■関西、中京方面からの学生合宿、都市圏や台湾からの修学旅行等の誘致拡大	
④県内産業の「もてなし産業化」による観光満足度の向上	■もてなし産業研究会による観光産業のすそ野の拡大	
	■観光おもてなし評価システムの研究・導入	
	■福井県観光連盟による地域資源を活かした旅行商品の販売や地域人材の育成により、地域自らの企画募集による着地型観光を推進	
<b>3 アジアからの誘客強化</b>		
①アジア観光プロモーションの強化	■台湾・中国等でのトップセールスと商談会の実施、現地メディアの招聘、著名人を活用した複数メディアによるプロモーションの展開	
②福井の知名度を活かした誘客活動の展開	■藤野巖九郎アニメの製作・放映・DVDの配布 ■藤野巖九郎記念館・旧宅の整備	■中国における誘客活動を強化
③国際コンベンションの誘致促進	■コンベンション誘致促進会議を中心とした誘致活動の展開と主催団体に対する開催経費の助成	

## プロジェクトの数値目標

観光客入込数	1,063万人(平成22年) ⇒ 1,200万人超(平成27年)
観光消費額	840億円(平成22年) ⇒ 1,000億円超(平成27年)